

龍谷2022.3.10

大門1

問1: 空所補充(熟語)

正解: ① by

- 解説: 「生まれつき」「本来」という意味の固定表現 "by nature" を問う問題である。
- 選択肢の検討:
 - ① by: 正解。"by nature" で「生まれつき」となる。
 - ② for: 不適切。
 - ③ from: 不適切。
 - ④ on: 不適切。

問2: 指示語の内容

正解: ③ 日本の子供が言うことをよく聞くこと

- 解説: 下線部(2)の "this" は、直前の文にある「日本の子供は生まれつき完璧に自制心があり、親の言うことを聞き、ルールに従っている」という筆者の思い込みの内容を指している。
- 選択肢の検討:
 - ① 日本に移住する際に誤解が生じること: 誤解の内容そのものではなく、子供の様子を指している。
 - ② 日本の自動人形が正確無比であること: 子供を例えた表現(automaton)であり、指示内容の主眼ではない。
 - ③ 日本の子供が言うことをよく聞くこと: 正解。文脈上、電車内での子供たちの静かな様子を指している。
 - ④ 日本の電車が時間通りに発着すること: 本文のテーマと無関係である。

問3: 表現の意図(比喩)

正解: ② Because they could not avoid seeing her son's behavior.

- 解説: "captive audience" とは「(逃げ場がなく)聴かざるを得ない・見ざるを得ない観客」を意味する。電車内という閉ざされた空間では、乗客は筆者の息子の騒ぎを避けられない状況にあることを表現している。

・選択肢の検討:

- ・① 息子に魅了されていたから: "captivated"(魅了された)と "captive"(囚われた)をかけた引っ掛けだが、文脈に合わない。
- ・② 息子の行動を見ることを避けられなかったから: 正解。
- ・③ 息子の行動を気にしていなかったから: 乗客の反応の説明であり、「captive」という表現の理由ではない。
- ・④ 電車で静かに座っていたから: 乗客の状態の説明に過ぎない。

問4: 空所補充(語法)

正解: ④ with

・解説: 「with + O + C(補語)」の付帯状況を表す構文である。"with their children seated beside them"(子供たちを横に座らせた状態で)となる。

・選択肢の検討:

- ・① against: 不適切。
- ・② despite: 不適切。
- ・③ to: 不適切。
- ・④ with: 正解。

問5: 内容の換言

正解: ② 子どもらしく元気にふるまうこと

・解説: 筆者の息子は「踊り、飛び跳ね、微笑みかける」といった行動をとっており、それが筆者にとっての(あるいはアメリカ的な文化背景での)「期待される振る舞い」であった。

・選択肢の検討:

- ・① アメリカに戻って生活すること: 文脈と無関係。
- ・② 子どもらしく元気にふるまうこと: 正解。
- ・③ 混雑した電車には乗らないこと: 文脈と無関係。
- ・④ 人前ではささやき声で話すこと: これは日本人の母親がしていたことであり、息子への期待ではない。

問6: 文脈の理解

正解: ② We thought it unusual to find any misbehaving Japanese children.

・解説: 第4段落で、行儀の悪い日本の幼児を見つけることが「ゲーム」のようになるほど、彼らにとってそれは珍しい光景だったと述べられている。

・選択肢の検討:

- ・① 公園で子供を泣き叫ぶままにした: そのような記述はない。
- ・② 行儀の悪い日本の子供を見つけるのは珍しいことだと思っていた: 正解。
- ・③ 子供を連れずに公園や美術館へ行くことはなかった: 不適切。
- ・④ 子供が公共の場でかんしゃくを起こすと安心した: 安心したのは「自分たちの子供だけでなく日本の子供もかんしゃくを起こすと知った時」である。

問7: 語彙の意味

正解: ① neglect their children

・解説: "intervene" は「介入する、仲裁に入る」という意味である。文脈では、親が子供を叱ったり、話しかけたりして行動を止めさせることを指す。

・選択肢の検討(含まれないものを選ぶ):

- ・① neglect their children: 正解。「放置・無視する」ことは介入(intervene)の反対に近い。
- ・② discipline their children: 介入に含まれる。
- ・③ talk to their children: 介入に含まれる。
- ・④ yell at their children: 介入に含まれる。

問8: 助動詞の用法

正解: ③ I would go fishing on Saturdays when I was young.

・解説: 下線部(8)の "would" は**「過去の習慣(よく~したものだ)」**を表す。

・選択肢の検討:

- ・① It would be a shame...: 仮定法(~だろうに)。
- ・② Would you like...?: 丁寧な勧誘。
- ・③ I would go fishing...: 正解。過去の習慣を表している。

- ④ ...she would come...: 時制の一致(過去から見た未来)。

問9: 内容一致(父親の行動)

正解: ② He did not show any anger when his family was on the train.

- 解説: 父親は電車内では叱らず、家族を降ろし、電車のドアが閉まってから初めて叱り始めた。
- 選択肢の検討:
 - ① 子供がかんしゃくを起こした時に家族を見捨てた: 見捨ててはおらず、一緒に降りている。
 - ② 家族が電車に乗っている間は怒りを見せなかった: 正解。
 - ③ 子供が帰りがらないのを見て悲しくなった: 記述がない。
 - ④ ついに子供を躾ける秘訣に気づいた: 気づいたのは筆者である。

問10: 理由の把握

正解: ② Because they feel embarrassed to scold in public.

- 解説: 「人前で叱らないことは親のプライドも守る(saves the pride of the parent)」という記述に基づくと、人前で叱ることは恥ずかしいことだと考えていることが推測できる。
- 選択肢の検討:
 - ① 子供に関心がないから: 不適切。
 - ② 公共の場で叱ることを恥ずかしく感じるから: 正解。
 - ③ 子供を誇りに思っているから: 文脈の理由として不適切。
 - ④ 模倣すべきモデルを見せたいから: この段落の主眼は「プライド(面目)」にある。

問11: 空所補充(熟語)

正解: ① Aside

- 本文の該当箇所:

"...having quiet conversations at the edges of parks. (⑪) from maintaining the pride of the child, disciplining in private also saves the pride of the parent."

- 解説:

空所(11)の直後に "from" が続いている。ここでは "Aside from ~" という群前置詞で、**「～に加えて」「～は別として」**という意味を表すのが適切である。

文脈としては、「子供のプライドを保つことに加えて、人目につかない場所で寝ることは親のプライド(面目)を守ることにになる」という追加のメリットを述べている。

選ばなかった選択肢の解説

• ② Away:

"Away from ~" は「～から離れて」という物理的・抽象的な距離を表す。この文脈では「プライドを保つことから離れて」となり、後半の「～もまた守る」という追加(also)のニュアンスと論理的につながらない。

• ③ Far:

"Far from ~" は「～から遠い」あるいは「決して～ではない(far from being...)」という意味になる。文脈に合わない。

• ④ Free:

"Free from ~" は「～がない」「～を免れている」という意味(例: free from pain)になる。この文中の「プライドを保つこと」は好ましい内容であり、それを「免れる」とするのは不自然である。

問12: 指示語の内容

正解: ② discipline

• 解説: 直前の文で "discipline" を「しつけ(shitsuke)」と定義し、その後の "I like the thought of it as training" の "it" は「しつけ＝規律(discipline)」を指している。

• 選択肢の検討:

• ① behavior: 振る舞い。

• ② discipline: 正解。

• ③ translation: 翻訳。

• ④ punishing: 罰すること。

問13: 具体例の特定

正解: ③ The sensei says the name of the writer's son quickly in a low voice.

• 解説: "do what works best"(最も効果的なことをする)の例として、先生が筆者の息子に対して行った「怒った低い声で素早く名前を呼ぶ」という方法が、完璧に機能したと述べられている。

・選択肢の検討:

- ・① 筆者が息子を迎えに幼稚園へ行くこと: 単なる日常の行動。
- ・② 筆者が息子の不法法を無視すること: 効果的な方法として提示されていない。
- ・③ 先生が筆者の息子の名前を低く素早い声で呼ぶこと: 正解。
- ・④ 先生が筆者に幼稚園で何が起きたか話すこと: 状況説明に過ぎない。

問14: 内容不一致(人物の描写)

正解: ② She laughed happily when the son imitated her.

・解説: 先生は息子が自分の真似をして面白がっている時に「困っていた(had trouble)」のであり、その場で幸せそうに笑ったわけではない。笑ったのは、後で筆者にその出来事を実演して話した時である。

・選択肢の検討(一致しないものを選ぶ):

- ・① 息子の行動を制御するのが難しいと感じた: 一致する("had trouble")。
- ・② 息子が自分の真似をした時に幸せそうに笑った: 正解(一致しない)。
- ・③ 筆者がしたのと同じ方法で息子を叱った: 一致する("yelled at him like I did")。
- ・④ 晴れた日の午後に筆者と話した: 一致する("One sunny afternoon")。

問15: 内容不一致(全体)

正解: ④ The writer felt sorry for her son because he was told to sing the same songs repeatedly in the kindergarten.

・解説: 幼稚園での繰り返しの教育(歌やゲーム)については「ルーティンになるまで繰り返すトレーニング」として肯定的に描かれており、筆者が息子を可哀想に思ったという記述はない。

・選択肢の検討(一致しないものを選ぶ):

- ・① 日本に来た当初、日本の子供は生まれつき行儀が良いと思っていた: 一致する(第1段落)。
- ・② 行儀の悪い日本の幼児を見つけるゲームを友人と楽しんだ: 一致する(第4段落)。
- ・③ 先生が自分の叱り方を採用したと知って少し恥ずかしくなった: 一致する(最終段落 "slightly embarrassed")。
- ・④ 同じ歌を繰り返し歌わされる息子を不憫に思った: 正解(一致しない)。

和訳

日本に移住した際に抱いた大きな誤解の一つは、日本の子供たちは生まれつき完璧に自律しているというものだった。私は、子供たちがまるで小さな自動人形のように、生まれつき従順で、親の言うことを聞き、敬意を持って静かにすべてのルールに間違いなく従っている姿を想像していた。

初めて家族で電車に乗った際、確かにそのように思えた。私の2歳の息子よりも年下の子供たちが、静かに、じっと座席に座っていたのである。対照的に、私の息子は電車の「囚われの聴衆」を自分専用のパフォーマンス会場の観客として扱い、寛容な(そしてありがたいことに、息子の行動を本気で気にかけていない様子の)乗客たちに向かって、踊ったり、飛び跳ねたり、微笑んだりしていた。私が必死にささやき声で叱る一方で、日本の母親たちは落ち着いて座り、子供たちを隣に座らせて、非の打ち所のない様子で過ごしているように見えた。

息子が特別に行儀が悪かったわけではない。ただ、彼に期待される振る舞いと、日本の子供たちが教えられていることとの間に、明らかな文化的相違があったのだ。私は疑問に思い始めた。日本の家族はどのように子供を躾けているのだろうか。どうすれば、公共の場でこれほどまでに子供たちを自制させられるのだろうか。

この問いを自問していたのは、アメリカ人の母親である私だけではなかった。行儀の悪い日本の幼児を見つけることは、公園や美術館に子供を連れて行く際、他の外国人保護者たちとのちょっとした「ゲーム」のようになった。日本の幼児が公共の場でかんしゃくを起こしている珍しい光景にたまたま出くわすと、私たちは安堵の溜息をついた。自分の子供だけではない、誰の子供でも起こり得ることなのだ、と。しかし、日本の親たちは全く介入していないように見えた。子供が地面に座り込み、公園や広場で泣き叫んでいるのに、親たちは比較的無関心であるように見えた。

だが、普段の彼らの行儀の良さを説明するものは何だろうか。ある日、私はなぜ日本の子供が叱られているところを見かけないのか、その理由を偶然発見した。それは、ある子供が家族の前で電車内でかんしゃくを起こしていた時のことだった。父親は家族全員を素早く電車から降ろした。電車のドアが閉まり、電車が走り去ったとき、私は彼が誰もいないホームで不法な子供の前にかがみ込み、叱り始めるのを見た。それは私にとって目から鱗が落ちるような出来事だった。

日本の親は、その場で事態を止めようとするのではなく、子供と話すためのプライベートな瞬間を待っているようだった。私は至る所でこの光景を目にするようになった。駅の柱の陰でかがみ込んだり、公園の端で静かに話をしたりする親たちの姿だ。子供のプライドを保つことに加え、人目のない場所で躾けることは、親の面目も守ることになる。

日本語で「規律(しつけ)」は通常「しつけ」と定義され、それは「訓練」または「罰すること」とおおよそ訳される。この2つの意味のうち、私は訓練としての考え方が好きだ。親は、子供が従うべき振る舞いのモデルとなることが期待されている。適切な振る舞いを繰り返しモデルとして示すことで子供に行儀を教えるという「訓練」への全体的な焦点は、息子の幼稚園を訪れた際にも明らかだった。園児たちは厳格なスケジュールに従い、靴をきれいに並べたり、ルーティンになるまで静かに座ったりといった、同じ歌、ゲーム、礼儀正しい振る舞いを繰り返している。

しかし、結局のところ、私たちは皆、その場において最善の方法をとる。ある晴れた日の午後の幼稚園のお迎えの際、先生が放課後に私を呼び止め、その日は私の息子の躾に苦労したと言った。彼女は英語でどう説明すればいいかわからず、息子は彼女の叱責を新しいゲームだと勘違

いし、彼女が叱ろうとするとその真似をしたという。最終的に、彼女は私と同じように息子を怒鳴ったのだと話してくれた。私はこれを聞いて少し恥ずかしくなった。「どうやって彼を怒鳴るのですか？」と私は尋ねた。彼女はこれを実演して見せた。我慢の限界が来たとき、怒った低い声で素早く彼の名前を呼ぶのだと言って笑った。「それは完璧にうまくいきました」と彼女は私に語った。